

【1-9】

湾・灘の区分	備讃瀬戸
取組の名称	井笠地区地域水産物供給基盤整備事業
事業期間	事業期間:2005～2011年度(平成17年度～平成23年度)
事業体制	【事業実施主体】 岡山県農林水産部水産課
事業の背景・目的	<p>当地区では、これまでにヒラメ・ガザミ・ヨシエビ等の種苗を放流しているものの、ガザミ等一部の魚種を除き、その効果が目に見えて上がっていない。この要因の一つとして、幼稚仔魚の良好な保育場となる干潟・藻場の広範囲での消滅が考えられる(周辺海域では、笠岡湾干拓約 1,650ha、寄島干拓約 100ha 等の影響によって、かつて沿岸部に広がっていた干潟の大半が消滅している)。また、アサリについては、浮遊幼生の着底期以降、すべてのライフサイクルで干潟を生息場所としていることから、干潟の消失がアサリ漁獲量減少の直接的な要因となっている。</p> <p>このため、失われた干潟等の再生・創出を進めることで漁場環境の積極的な修復、水産資源の増大を図る。</p>
事業場所の詳細	 <p>笠岡市及び浅口市地先</p> <p>位置図</p>

<p>事業内容</p>	<p>平成 17～23 年度に笠岡市及び浅口市寄島町地先に人工干潟を整備し、水質改善による漁場環境の保全・修復及び二枚貝等の生息環境を創出した。整備面積は 2 工区(大島工区、寄島工区)で計 5.34ha。</p> 
<p>モニタリング方法(効果の確認方法)の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)底質環境(粒径、硫化物量、有機物量)</li> <li>(2)干潟生物の生息状況(アサリ、ベントス)</li> </ul> </li> <li>○調査時期: 12月</li> <li>○調査場所 <ul style="list-style-type: none"> <li>造成干潟工区内(大島工区、寄島工区)</li> </ul> </li> <li>○調査地点数 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)底質環境:各工区4点</li> <li>(2)干潟生物の生息状況:各工区12点</li> </ul> </li> <li>○モニタリング方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)底質環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>任意の調査点で底質を200～300g程度採取し、粒度組成、有機物量、硫化物量を測定。</li> </ul> </li> <li>(2)干潟生物の生息状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>任意の調査点で1辺50cmのコードラードを設置して、砂を深さ15cm程度まで掘削し、5mm目合いの篩(ふるい)を用いて、ベントスを選別。選別したベントスは、種の同定、殻長・重量を測定。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<p>取組による効果・影響及びその判断基準等</p>	<p>整備後のモニタリング調査の結果、干潟内にアサリが分布していることが確認された(H26.11大島工区 平均密度:約170個体/m<sup>2</sup>、平均殻長:約18mm)。</p>
<p>現状での課題</p>	<p>クロダイ等による食害により、春に確認されたアサリ稚貝が、秋には大きく減耗することが確認されている。</p>
<p>今後の予定等</p>	<p>県及び地元漁協が連携して、クロダイ等による食害の防除、人工干潟の地盤の攪拌、ホトギスガイ等競合生物の除去などの『アサリ及びヨシエビの生息環境を改善するための取組』を行うことで事業効果発現の促進に努める。</p>
<p>取組事例についての発表資料等</p>	<p>特になし</p>
<p>情報提供元</p>	<p>岡山県環境文化部環境管理課</p>